

生命倫理学特論 講義日程 2012年

教室：基礎看護学セミナー室（アレスコ棟1階・117）

時間：17時～19時過ぎ（途中10～15分休憩）

講義日	担当教官	テーマ	指定文献
第1回 10月4日 (木)	安藤泰至	いのちの痛みからの問い —「生命倫理」という営みをとらえ直す	安藤泰至「いのちへの問い いのちからの問い—序にかえて」、安藤（編）『「いのちの思想」を掘り起こす』所収
第2回 10月23日 (火)	香川知晶 (山梨大学)	BMI（人間と機械の融合） をめぐる倫理的・社会的 問題	ドナルド・ケネディ「脳神経倫理学：新しい学際領域を描く」、ジュディ・イレス（編）『脳神経倫理学』所収
第3回 11月7日 (水)	西平 直 (京都大学)	デス・エデュケーションと 生命倫理	西平直「「死の教育」からの問い」、 安藤泰至・高橋都（編）『終末期医療 (シリーズ生命倫理学4)』所収
第4回 11月28日 (水)	竹之内裕文 (静岡大学)	「本当に生きる」という問い かけ—限界づけられた生との 出会い	竹之内裕文「限界づけられた生の希望」、 竹之内（編）、阿部恭嗣（著）『七転び八 起き寝たきりいのちの証し』所収
第5回 12月13日 (木)	安藤泰至	科学者の社会的発言をめぐる 倫理問題—水俣病および原発 事故を題材として—	津田敏秀『医学者は公害事件で何をして きたのか』より 他

- ・各回とも、担当教官による講義（1時間弱）、その後、質疑応答およびディスカッション（1時間強）
- ・指定文献はその回の講義までに必ず読んでくること。
その前の回の講義時に安藤が原版を持ってくるので、そこから各自コピーすること。
- ・成績は、平常点50点（ディスカッションなどへの取り組みの積極性など、各回10点）およびレポート50点（2013年1月末までに提出、最も興味を持ったテーマについて）によって評価する。

生命倫理学特論 講義日程 2011年

教室：基礎看護学セミナー室（アレスコ棟1階・117）

時間：17時～19時過ぎ（途中10～15分休憩）

講義日	担当教官	テーマ	指定文献
第1回 10月6日 (木)	安藤泰至	公正な科学研究とは何か？ —研究発表倫理を中心に—	山崎茂明『パブリッシュ・オア・ペリッシュ』より第5章、第8章
第2回 10月24日 (月)	村岡 潔 (佛教大学)	新たなART（生殖補助医療） をめぐって	村岡潔『不妊と男性』より第1章
第3回 11月14日 (月)	高草木光一 (慶応義塾大学)	市民のための「医学概論」	澤瀉久敬『医学の哲学 増補版』より 1-30頁
第4回 11月25日 (金)	大谷いづみ (立命館大学)	承認をめぐる闘争 —「生と死のパッケージ化」 が内包するもの	大谷いづみ「自分らしく、人間らしく」 死にたい？」、玉井・大谷編『はじめて 出会う生命倫理』所収、他
第5回 12月8日 (木)	安藤泰至	「人体実験」論の意義と限界 —人間の生の道具化・手段化 をめぐって—	安藤泰至「ハンス・ヨナスと日本生命倫理 をめぐって」、『宗教学研究紀要』 第7号所収

- ・各回とも、担当教官による講義（1時間弱）、その後、質疑応答およびディスカッション（1時間強）
- ・指定文献はその回の講義までに必ず読んでくること。
その前の回の講義時に安藤が原版を持ってくるので、そこから各自コピーすること。
- ・成績は、平常点50点（ディスカッションなどへの取り組みの積極性など、各回10点）およびレポート50点（2012年1月末までに提出、最も興味を持ったテーマについて）によって評価する。

生命倫理学特論 講義日程 2010年

教室：111講義室（1F）

時間：17時～19時過ぎ（途中10～15分休憩）

講義日	担当教官	テーマ	指定文献
第1回 10月7日 (木)	安藤泰至	生命操作システムにおける 「見えざるもの」	安藤泰至「臓器移植医療における「弱者」 とは誰か?」、渡邊直樹編『宗教と現代が わかる本2010』所収、他一編
第2回 10月27日 (水)	玉井真理子 (信州大学)	遺伝医療と社会	玉井真理子『遺伝医療とこころのケア』 より第1章
第3回 11月17日 (水)	濱野清志 (京都文教大学)	心理療法の視点からみた いのちと身体	濱野清志『覚醒する心体—こころの自然/ からだの自然』より序章、他一編
第4回 12月8日 (水)	高橋都 (獨協医科大学)	「同病者が交流すること」 の効用と課題	高橋都「乳癌患者の相互扶助行動」、 久保紘章・石川到覚編『セルフヘルプ・ グループの理論と展開』所収、他一編
第5回 12月16日 (木)	安藤泰至	医療にとって「死」とは なにか?	安藤泰至「死をめぐる思想と課題」、 清水哲郎・島藺進編『ケア従事者の ための死生学』所収

- ・各回とも、担当教官による講義（1時間弱）、その後、質疑応答およびディスカッション（1時間強）
- ・指定文献はその回の講義までに必ず読んでくること。
その前の回の講義時に安藤が原版を持ってくるので、そこから各自コピーすること。
- ・成績は、平常点50点（ディスカッションなどへの取り組みの積極性など、各回10点）およびレポート50点（2011年1月末までに提出、最も興味を持ったテーマについて）によって評価する。

生命倫理学特論 講義日程 2009年

教室：基礎看護学セミナー室（保健学科棟1F、117）

時間：17時～19時過ぎ（途中10～15分休憩）

講義日	担当教官	テーマ	指定文献
第1回 10月7日 (水)	安藤泰至	「治療」という語を めぐるポリティクス	安藤泰至「「先端医療」をめぐる議論のあり方」、 佐藤光（編）『生命の産業—バイオテクノロジーの経済倫理学』第4章
第2回 10月28日 (水)	清水哲郎 (東京大学)	意思決定プロセスの 臨床倫理	清水哲郎「臨床倫理エッセンシャル」、 清水哲郎ホームページ「哲学する諸現場」 よりリンク予定
第3回 11月9日 (月)	脇坂真弥 (東京理科大学)	依存症からの回復 —当事者たちの試みから	野口裕二『アルコールリズムの社会学』 第4～5章、 斎藤学（編）『依存と虐待』第6章
第4回 12月3日 (木)	黒田浩一郎 (龍谷大学)	現代医学・医療をめぐる 神話	黒田浩一郎「赤ひげ」、 佐藤純一・黒田浩一郎（編） 『医療神話の社会学』第3章
第5回 12月16日 (水)	安藤泰至	生命倫理問題としての 水俣病事件	津田敏秀 『医学者は公害事件で何をしてきたのか』 II—1、II—2章

- ・各回とも、担当教官による講義（1時間弱）、その後、質疑応答およびディスカッション（1時間強）
- ・指定文献はその回の講義までに必ず読んでくること。その前の回の講義時に安藤が原版を持ってくるので、そこから各自コピーすること（清水先生のもの各自でHPよりダウンロードすること）。
- ・成績は、平常点50点（ディスカッションなどへの取り組みの積極性など、各回10点）およびレポート50点（2010年1月末までに提出、最も興味を持ったテーマについて）によって評価する。

生命倫理学特論 講義日程 2008年

教室：基礎看護学セミナー室（保健学科棟1F、117）

時間：17時～19時過ぎ（途中10～15分休憩）

講義日	担当教官	テーマ	指定文献
第1回 10月9日 (木)	安藤泰至	人間の生の尊厳とは？	安藤泰至「人間の生における「尊厳」概念の再考」、『医学哲学・医学倫理』第19号、P.16-30
第2回 10月20日 (月)	美馬達哉 (京都大学)	脳神経倫理への招待 —サイボーグを事例として	美馬達哉「脳科学が社会を変える」 (5回連載) 朝日新聞科学面コラム
第3回 11月13日 (木)	葛西賢太 (宗教情報センター)	アルコール依存症者における死と再生	葛西賢太『断酒が作り出す共同性』より 第1章・第2章
第4回 12月8日 (月)	小松美彦 (東京海洋大学)	脳死・臓器移植の メタ科学的検討	小松美彦『脳死・臓器移植の本当の話』より 第3章
第5回 12月18日 (木)	安藤泰至	現代社会における「よい死」 をめぐる言説の問題点	安藤泰至「死生学と生命倫理—「よい死」をめぐる言説を中心に」、島菌進・竹内整一（編）『死生学〔1〕 死生学とは何か』第2章

- ・各回とも、担当教官による講義（1時間弱）、その後、質疑応答およびディスカッション（1時間強）
- ・指定文献はその回の講義までに必ず読んでくること。
その前の回の講義時に安藤が原版を持ってくるので、そこから各自コピーすること。
- ・成績は、平常点50点（ディスカッションなどへの取り組みの積極性など、各回10点）およびレポート50点（2009年1月末までに提出、最も興味を持ったテーマについて）によって評価する。

生命倫理学特論 講義日程 2007年

教室：基礎看護学セミナー室（保健学科棟1F、117）

時間：17時～19時過ぎ（途中10～15分休憩）

講義日	担当教官	テーマ	指定文献
第1回 10月5日 (金)	安藤泰至	「科学的非行」をめぐって －科学研究者の倫理に ついての議論の現状－	山崎茂明『科学者の不正行為』より 第5章、第6章
第2回 10月26日 (金)	霜田求 (大阪大学)	遺伝子診療（遺伝学的検査 と遺伝カウンセリング） の倫理	霜田求「遺伝子医療における臨床と倫理」、 『理想』No.675 所収 他
第3回 11月13日 (火)	打出喜義 (金沢大学)	学問の自由と研究者の倫理 －産婦人科医としての 体験から－	打出喜義「学問の自由と研究者の倫理」、 『臨床評価』32 p.63-74 他
第4回 12月7日 (金)	吉永進一 (舞鶴高専)	治療のころ －近代日本における 民間精神療法－	井村宏次『霊術家の饗宴』より 第3章 桑原天然（俊郎）
第5回 12月18日 (火)	安藤泰至	選択の自由と選別の論理 －先端医療の倫理的問題に おける「当事者」とは？－	安藤泰至「「先端医療」をめぐる議論のあり方」 佐藤光（編）『生命の産業－バイオテクノ ロジーの経済倫理学』所収

- ・各回とも、担当教官による講義（1時間弱）、その後、質疑応答およびディスカッション（1時間強）
- ・指定文献はその回の講義までに必ず読んでくること。
その前の回の講義時に安藤が原版を持ってくるので、そこから各自コピーすること。
- ・成績は、平常点50点（ディスカッションなどへの取り組みの積極性など、各回10点）およびレポート50点（2008年1月末までに提出、最も興味を持ったテーマについて）によって評価する。

生命倫理学特論 講義日程 2006年

教室：基礎看護学セミナー室（保健学科棟1F、117）

時間：17時－19時過ぎ（途中10－15分休憩）

講義日	担当教官	テーマ	指定文献
第1回 5月11日 (木)	安藤泰至	「科学的非行」をめぐって － 科学研究者の倫理に ついての議論の現状－	山崎茂明『科学者の不正行為』より 第5章 (p.65-77)、第6章 (p.79-103)
第2回 5月25日 (木)	島菌進 (東京大学)	いのちの始まりの生命倫理	島菌進『いのちの始まりの生命倫理』より 鼎談「クローン胚利用と人間の終焉？」 p.139-180
第3回 6月9日 (金)	大林雅之 (京都工芸繊維大学)	技術開発は倫理問題を回避 できるのか－ ES細胞研究 をめぐって－	大林雅之『生命（いのち）の淵』より 一部、他プリント1枚
第4回 6月23日 (金)	佐藤光 (大阪市立大学)	バイオ産業の日米比較 － 日本はなぜ遅れたのか、 なぜ遅れてはいけないのか	佐藤光「バイオクラスターの経済倫理学」 (科研費報告書、2005年)より 第1章、第2章
第5回 7月13日 (木)	安藤泰至	「健康」至上主義社会の 落とし穴	安藤泰至「〈病いの知〉の可能性」、 『医学哲学・医学倫理』第23号 p.77-86

- ・各回とも、担当教官による講義（1時間弱）、その後、質疑応答およびディスカッション（1時間強）
- ・指定文献はその回の講義までに必ず読んでくること。
その前の回の講義時に安藤が原版を持ってくるので、そこから各自コピーすること。
- ・成績は、平常点50点（ディスカッションなどへの取り組みの積極性など、各回10点）およびレポート50点（7月末（予定）までに提出、最も興味を持てたテーマについて）によって評価する。

生命倫理学特論 講義日程 2005年

教室：基礎看護学セミナー室（保健学科棟1F、117）

時間：17時～19時過ぎ（途中10～15分休憩）

講義日	担当教官	テーマ	指定文献
第1回 10月7日 (金)	安藤泰至	生命・生活・人生・いのち - 人間の生の多層性-	安藤泰至 「人間の生における「尊厳」概念の再考」、 『医学哲学・医学倫理』第19号、p.16-30
第2回 10月21日 (金)	栗屋剛 (岡山大学)	テクノロジーによる 人間改造とその限界	栗屋剛 「人間改造」、 『岩波 応用倫理学講義1 生命』 p.203-223
第3回 11月14日 (月)	佐藤純一 (高知大学)	医療資源配分に関する 倫理的議論	トーマス・シュランメ 『はじめての生命倫理』より 第4章 「連帯社会における公平さの問題」 p.141-172
第4回 12月2日 (金)	垂谷茂弘 (舞鶴高専)	癒しの四側面 - 「心理性・身体性・社会 性」と霊性-	河合隼雄『コンプレックス』（岩波新書） より 第四章（p.108-141）
第5回 12月15日 (木)	安藤泰至	「科学的非行」をめぐって - 科学研究者の倫理に ついての議論の現状-	山崎茂明 『科学者の不正行為』より 第5章（p.65-77）、第6章（p.79-103）

- ・各回とも、担当教官による講義（1時間弱）、その後、質疑応答およびディスカッション（1時間強）
- ・指定文献はその回の講義までに必ず読んでくること。
その前の回の講義時に安藤が原版を持ってくるので、そこから各自コピーすること。
- ・成績は、平常点50点（ディスカッションなどへの取り組みの積極性など、各回10点）およびレポート50点（1月末までに提出、最も興味を持てたテーマについて）によって評価する。

生命倫理学特論 講義日程 2004年

教室：基礎看護学セミナー室（保健学科棟1F、117）

時間：17時～19時過ぎ（途中10～15分休憩）

講義日	担当教官	テーマ	指定文献
第1回 10月8日 (金)	安藤泰至	生命・生活・人生・いのち - 人間の生の多層性-	安藤泰至 「人間の生における「尊厳」概念の再考」、 『医学哲学・医学倫理』第19号、p.16-30
第2回 10月19日 (火)	土屋貴志 (大阪市立大学)	医学研究の倫理 - 歴史的観点から-	事前学習用プリント（13枚）
第3回 11月9日 (火)	小原克博 (同志社大学)	動物の権利	デヴィッド・ドゥグラツィア『動物の権利』 より第7章「動物を用いた研究」 p.143-169
第4回 12月9日 (木)	安藤泰至	ヒト・クローン作成の是非	マーサ・ナスバウム（編）『クローン 是か非か』 より論文3篇
第5回 12月17日 (金)	渥美公秀 (大阪大学)	記憶と対話 - 災厄をめぐる語り-	渥美公秀「記憶の伝承に関するグループ・ダイ ナミックス」、大阪大学21世紀COEプログラ ム『臨床と対話』 p.146-160

- ・各回とも、担当教官による講義（1時間弱）、その後、質疑応答およびディスカッション（1時間強）
- ・指定文献はその回の講義までに必ず読んでくること。
その前の回の講義時に安藤が原版を持ってくるので、そこから各自コピーすること。
- ・成績は、平常点50点（ディスカッションなどへの取り組みの積極性など、各回10点）およびレポート50点（1月末までに提出、最も興味を持てたテーマについて）によって評価する。

生命倫理学特論 講義日程 2003年

日時	担当教官	テーマ	指定文献
第1回 10月7日(火) 17時-19時	安藤泰至	人間の生の尊厳とは？	安藤泰至「人間の生における「尊厳」概念の再考」、『医学哲学・医学倫理』第19号、p.16-30
第2回 10月31日(金) 17時-19時	ぬで島次郎 (三菱化学生命科学研究所)	先端医療のルール : 2003年日本の課題	ぬで島次郎『先端医療のルールー 人体利用はどこまで許されるのかー』(講談社現代新書)
第3回 11月21日(金) 14時-16時	岩田文昭 (大阪教育大学)	いのち教育の現状と課題	岩田文昭「いのち教育の原理と課題 序説」『大阪教育大学紀要 第IV部門 教育科学』第51巻第1号 p.37-49
第4回 12月2日(火) 17時-19時	村岡潔 (佛教大学)	医学の不確実性	佐藤・黒田(編)『医療神話の社会学』(世界思想社)、第1章「人間ドック」およびコラム3つ p.1-36
第5回 12月16日(火) 17時-19時	安藤泰至	現代の医療とスピリチュアリティ	安藤泰至「現代の医療とスピリチュアリティー 生の全体性への志向と生の断片化への流れとのはざままでー」、『現代宗教2003』p.73-89

- ・教室は、基礎看護学セミナー室(保健学科棟1F)
- ・各回とも、担当教官による講義(約1時間)、その後、質疑応答およびディスカッション(1時間~1時間半)
- ・指定文献はその回の講義までに必ず読んでくること。ぬで島先生の本は(早い目に)各自購入のこと。他のものは、その前の回の講義時に安藤が原版を持ってくるので、そこから各自コピーすること。
- ・成績は、平常点50点(ディスカッションなどへの取り組みの積極性など、各回10点)およびレポート50点(1月末までに提出、最も興味を持てたテーマについて)によって評価する。